

連載で説明したこと

この連載でご説明してきたことは、インターネットに関する実践的な知識ではありません。実践的な技術を学ぶための基礎となる様々な知識とそのつながり、すなわち「知識のネットワーク」を頭の中に構成していただくことを目指しました。

インターネットを担う技術者になるためには、皆さんにはこれからさらに勉強を重ねていただかなければなりません。そこで、最終回では、これからどのように勉強していただきたいかを述べます。

言葉の意味を理解する

第1回でも述べたように、特にコンピュータ関係の分野では、英語からの外来語が氾濫しています。これが知識の消化不良の原因になりがちだと思います。

片仮名語の技術用語に出会ったら、丸暗記してわかったつもりになるのではなく、ぜひ一度英語の綴りを調べて辞書を引いてみてください。単語の語源が説明されている辞書をお勧めします。「なぜそういうのか」がわかれば、技術用語が意味する概念の理解が深まるでしょう。

時には英英辞典（英語の意味を掘り下げて英語で説明している、言わば「英語の国語辞典」）が役立つこともあります。たとえば第10回で説明した「プロトコル」の意味は、私が英英辞典で初めて「なぜそういうのか」を理解できたものです。

この連載では、なるべく用語の元の意味を説明するよう努めてきましたが、説明しなかった用語について以下に補っておきます。

データ (data)

ラテン語で「与えられた」の意味。「...によって与えられた（出所が示された）情報」に由来します。

データベース (database)

「データの基地」の意味。米軍で、どこの基地に何の資材があるかの情報を置く基地を作ろうという考えから生まれました。

システム (system)

「一体として働くものの集まり」の意味。「共に (syn) 組み立てるもの (stem)」が語源です。synはギリシャ語起源で、synchronous (同期式の) のsynと同じです。

デジタル (digital)

「計数型の」の意味。digitはラテン語の「指」に由来します。

アナログ (analogue, analog)

「相似の」の意味。気圧の変化である音声をその相似形の電流の変化で伝えるのがアナ

ログ電話であると説明すれば、なぜそういうのがおわかりになるでしょう。

システムを使ってみる

実際にシステムを使ってみないことには、実践的な知識は身に付きません。最近ではパソコンのインターネット接続機能が使いやすくなってきており、ISP（インターネットサービスプロバイダ）と契約すれば誰でもインターネットを利用できます。まだインターネットを使ったことのない人は、ぜひ実際に利用してみてください。

ネットワークの運用に従事する人は、サーバ（サービス提供用コンピュータ）やルータなどの操作法も学ばなければなりません。時に失敗して利用者に迷惑をかけることもあるでしょうが、失敗したら謝ればよいのです。失敗を恐れて何もしないのはいけません。失敗を極力避ける方策と、失敗したら迅速に元に戻す方法を考えておけば、恐れる必要はありません。

そのように実際にシステムを操作するためにマニュアルや専門書を読んだ時、理解できないことがあったら、この連載を振り返ってみてください。

社会への影響

インターネットでは、誰もが世界へ情報を発信することができます。災害の情報を伝えるのにインターネットが活躍し、その後も長く情報が発信されていることは、よく知られています。マスコミのフィルターがかからない情報を誰もが自由に発信でき、また入手できることは、大きなメリットです。

しかし一方、誰もが自由にアクセスできるインターネットで子供に有害な情報も発信されていることは、大きな社会問題になっています。インターネットによるコミュニケーションで嫌がらせや名誉毀損などの問題も起こっています。

便利なインターネットは「諸刃の剣」です。それを人類の幸福のために役立てるには、すべての人々に「自己責任」の自覚が求められます。責任ある行動とは、自分の行動が社会に与える影響を考え、問題が起こった場合には自ら誠実に対応するということです。インターネット技術を担う人は、ぜひこのような社会的な視点も持ってください。

ボランティア精神

インターネットの基礎研究は米国政府のプロジェクトとしてスタートしました。しかし、それを世界に広げたのは、各国の国策ではありません。ボランティア精神旺盛な世界中の研究者たちでした。

ボランティアとは「自ら進んで行う人」の意味です。人の幸せのために自分は何ができるかを自ら考えて行動するのがボランティアです。必ずしも「無償奉仕」を意味するものではありません。給料をもらう仕事でも、「お客様のために何をすべきか」を自ら考えるボランティア精神は大切だと思います。

一人でできることは限られていても、多くの人々がボランティア精神を持てば、社会を大きく動かす力になります。インターネットの隆盛がそれを証明しています。インターネットを発展させたボランティア精神を、ぜひ皆さんも受け継いでください。

ご精読ありがとうございました。